

研究授業報告

9月7日(水)6限	校内授業研	学年教科	2年C組 社会
授業者	協力者	指導助言者	司会・記録
小野 智博 教諭	土居 晴洋 教授 (大分大学教育学部)	佐藤 尚 指導主事 (大分県教育センター)	阿南 幸一 教諭 白石 遼太郎 教諭
学習内容	C 日本の様々な地域(3)日本の諸地域 北海道地方と東北地方の地域的特色とエコツーリズムの企画提案		
本時のねらい	北海道地方と東北地方の地域的特色や地域の課題について、エキスパート班で作成したエコツーリズム企画を、伝え合い、意見を交換し合う学習を通して、他者の考えを取り入れながら、主体的に追究するようになる。		
「問い」を生み出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・エキスパート班で作成した資料をジグソー学習で班員にプレゼンテーションをする。 ・班員のプレゼンテーションについて、質問や改善点を付箋に記入する。 		
協議の柱	<ul style="list-style-type: none"> ・「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。 ※付箋かかれた意見の交流は、学び続けるエネルギーになったか。 		

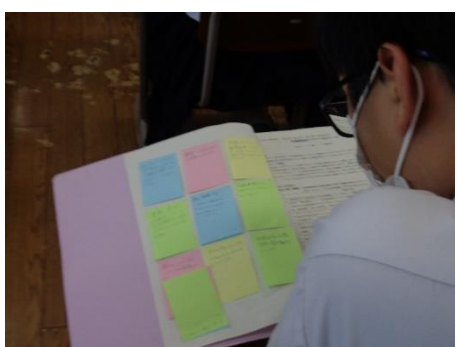
【授業の様子】



エキスパート班で作成したスライドを資料としながら班員にプレゼンテーションを行います。
(ジグソー学習)



生活・文化、産業、防災、エコツーリズム、考察に基づいた質問や改善点を付箋に記入し発表者に渡します。発表者は、付箋にある意見を参考に深めるための改善点を探ります。



事後研報告

協議の柱	「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。
------	------------------------------

【授業者の振り返り】

学習者は、歴史の方がテストで得点しやすいと考えていることから地理に苦手意識を持っているようである。多くの生徒は、資料を読み取り、活用することを苦手としている。そこで、「北海道・東北地方のエコツーリズムの企画」をパフォーマンス課題として設定し、学習者が主体的に取り組めるよう工夫した。

地域的特色や課題を「調べる」、「考える」、「表現する」という機会を通して、北海道地方と東北地方とを比較・分析しながら知識を概念的につなげたり、学び方を習得させたりしたい。

本時では、問いを生み出す工夫として「ジグソー法」と「付箋に書き込ませる場面」を設定した。

ジグソー法で、どのくらいの知識が定着できているかは若干心配である。また、付箋を書かせたのは、学びにつながる「いい質問」ができる生徒を育てたいと考えるからである。これから共感的理解を土台とした批判的思考力を働かせることのできる学年を目指したい。

【質問】

質問	回答
質問する力について (良い質問はどれ?どのくらいあったか?)	祭りや伝統的工芸品が同じようにあるなど内容について質問ができていればよい。どの班もいい質問があったと発言したことから、九割くらいできていた。
エキスパート学習はどうやったのか	本日の午前中にやった。2つの班を一つに行なった。レポートの交流からはじめ、スライド作成を行なった。
評価規準(知識・技能)は、何人くらい達成できていたのか。	見取りはあまりできていない。形成での評価を行う。次のエキスパート学習で資料を再構成できているか確認。クロストークで最終確認をする。
予想していた質問とずれた質問を行っていた生徒が数名いた。他クラスでの実践では、どう対応するか。	前時に抑えを行っている(不十分だった)。質問の内容について再度抑えを行うつもりである。
何を使ってエキスパート学習の資料を作ったのか。	前時にレポートの作成を行っている。ハンドブックや書籍の情報を基本としながら、インターネットを活用して、エキスパート学習の資料の準備を行った。
スライドの視点を分けた意図は何か	地域的特色を捉えるために、生徒にある程度視点を与えないと深まらないと感じ、視点を提供した。(教科書にある内容)

【グループ協議で出た意見や感想】

- 付箋にかくために、発表をしっかりと聞くことにつながっていた。主体的に活動していた。発表者は良く調べて発表している。どのくらい質問・意見があったかを付箋の枚数で見れるのは良い。班によって枚数の差がみられたことが気になる。付箋とJamboardのどちらが良いかなど今後検討してはどうか。
- (ジグソー法の活用についての不安)特徴にこだわりすぎて社会の知識として大丈夫なのか。
- エキスパート学習は、個人に意識を持たせるうえで効果的と感じた。班によって理解度に差が生じているのではないか。深い理解につながっているか。
- 質問の質を上げるためには、エキスパート学習で単元の核に迫ったり、付箋を書く時の視点を与えたり、パフォーマンス課題に戻ったりする場面の工夫がもっと必要になるだろう。また、深まるような質問を例示するのも良い。また、質問を考えるのに十分な時間を確保出来たらよいかもかもしれない。
- 生徒が学びの中心にある授業スタイルとなっていた。生徒の聞き方が指導されている。
- AI マイニングなど生徒の興味・関心をひく手立てがよい。
- 生徒自身が改善する意義をどこまで感じ取れたのか。

【協力者より】

今回の内容は地誌学となる。静態地誌と動態地誌の2つに分かれる。静態地誌だと、暗記教科的になるので今では、動態地誌を重視する傾向がある。静態地誌でも動態地誌でもない第3の方法のような授業であった。

子どもたちの疑問や意欲を生み出すような授業であった。AI マイニングに関してはいい面と悪い面がある。今回の活用はよかった。改善点としては、いかにも行っているような臨場感を感じさせる必要がある。空間的スケールの違いを生徒に認識させる。厳しい自然環境ではあるが、道民などはそのように感じていないと思う。生徒に疑問を出させるのは良かったが、プレゼンは羅列的になってしまっていた。生徒に何をどう考えたらよいかの道筋を与える必要がある。AI マイニングで出来たイメージがそのままその地域のイメージであるとは言い難い点を抑える必要がある。イメージはこうだが、実際はこうだというようなまとめがよい。住んでいる人に着目させる必要がある。

【指導助言者より】

地理では、データの数値を読み取り、自分の考えを形成することや知識を概念的につなげることを大事にしている。日本の諸地域は、普通に行くと時間が足りない。今回のように2つの地方をまとめて学習するのは、指導要領上問題はない。パフォーマンス課題に挑戦するとき、ルーブリックが大事になってくる。スライド作成は合意解であり、最終的には納得解になる。ジグソー法の活用には、生徒自らが資料を手に入れるものと与えられた資料について考えるものの2つがある。今回の場合、対話が生まれやすい前者を活用するのは良かった。ポートフォリオで「内容知の振り返り」と「方法知の振り返り」を行い自立した学習者の育成を目指す必要がある。

批判的思考力を高めるには、教師がモデリングとなる必要がある。5W1H や持続可能性、効率性などを生徒に示し続けてほしい。道具としての ICT の活用や学習環境については、常にチェックが必要がある。

【寄せられた感想】※ふりかえりをもとに

- パフォーマンス課題についての授業で面白かった。主体性を育てる上で有効であると感じるし、特に本校では生徒の資質能力を育成する上で有効だと感じる。
- 他教科の授業を見ることで、新しいことを知ることができるので良かった。社会のような用語のキーワードを重視する教科では、振り返りに使った AI マイニングはひと目見てわかるので良いと思った。また、総合的な学習に通じることもグループ協議の中で出たので、それも興味深かった。
- AI マイニングの導入など先進的な取り組みは、様々な場面で使えると感じた。使う目的と場面には、配慮が必要である。今回の場合、AI マイニングの活用は、全員の意見を収集につながって良かった。
- クロムブックの活用やジグソー法など色々な手法を使っただけの授業でとても勉強になった。
- 次の学び(授業)につながる質問が出ていたのがよい。生徒の主体的に学ぶ姿が印象的だった。生徒が課題を引き受け、相手意識を持ってプレゼンしており、聞く生徒も真剣に聞いていました。付箋の活用という仕掛けが良かった。
- 単元を通したワークシート(ポートフォリオ)は、生徒の振り返りにも有効で参考にしたい。
- プレゼンテーションやその準備を協働で同時編集できるようになったことは大きい。生徒の主体性を持たせる取組となっている。
- 社会科は、教師が知識を生徒に授ける形態が主だと思っていたが、あのようになら生徒自身が役割を果たすために知識を得ていくという学習形態のあり方がとても新鮮だった。
- パフォーマンス課題を設定した授業は、提案性のある授業だった。考察したことをもとに発表するという流れの中で学習を深めることができそうである。今後、引き続き検証し授業改善につなげたい。
- 「質問の質を高める」ために教員側が意識すべきことを考えるきっかけとなった。